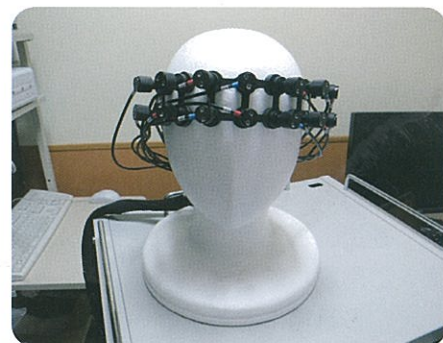




うつ病の
診断を補助する

光トポグラフィー検査が はじまります！



プローブ

当センターでは近日、光トポグラフィー検査専門外来を新規にオープンします。精神科医療において、うつ状態の原因となる病気の診断は、主に問診により得られる情報にもとづいて行われていますが、その判断は他の疾患と判別がつきにくい場合があります。

この光トポグラフィー検査は、そうした問診による診断に「脳血流の情報」を加えることで、より確かな診断に近づこうとするものです（抑うつ状態の鑑別診断の補助のための検査）。なお、光トポグラフィー検査だけで診断をつけたり、病気を証明したりすることはできません。あくまで診断を補助する検査であることにご留意ください。

検査は、検査装置を頭部に装着し、近赤外線光を用いて脳を働かせる課題を行う際の脳の血液量変化を測定し、脳の機能の状態を検討します。検査に用いられる近赤外線光は曇りの日の日光よりも弱い光です。安全性は広く認められています。なお、検査には適応があり、検査を希望する方全てが検査の対象になる訳ではありません。詳細につきましては、ホームページをご覧ください。お電話にてお問い合わせください。

問い合わせ先：福祉医療相談科



検査の様子

Contents

- 光トポグラフィー検査がはじまります！
- デイケアをお探しの方へ
- 専門病棟見学会のお知らせ
- セカンド・オピニオン外来を新装します
- 「ナチ時代の精神医学」について
- 外来診療担当表

精神医療センター基本理念

私たちは、こころの健康を支え、質の高い精神医療を提供します

● **デイケアをお探しの方に朗報です!** ●

新たに、他の病院やクリニックに通院中の患者さんもご利用頂けるようになりました

🍀 12月からスタートします!

このたび他の病院やクリニックに通院中の患者さんも、現在通院している医療機関を変更することなく、当センターのデイケアをご利用頂けるようになりました。関係機関とも協力し、就労等、患者さんの地域移行も積極的にすすめてまいります。どうぞご利用ください。

🍀 特色

○ 多彩なプログラム

患者さんの目標に合わせて、各種集団プログラムにご参加いただけます。充実した設備と多様なプログラムをご用意しています。

○ 多職種によるサポート

作業療法士、臨床心理士、看護師、精神保健福祉士の職員が一丸となり社会復帰を支援します。

○ 充実した施設

明るく機能的なデイケア室や療法棟(体育館)、パソコン室のほか、調理室、音楽室などもあり、設備が充実しています。



デイケア室



療法棟(体育館)



パソコン室



🍀 ご利用希望の方へ

まずは見学にお越しください。
お電話にて受付しています。
皆様のご利用をお待ちしています。

問い合わせ先：デイケア科

専門病棟見学会のお知らせ

今年度より、
ストレスケア病棟に加え、
依存症病棟、思春期病棟も
見学いただけます

次の日程により行います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

- 日時・内容：プログラムをご覧ください。
 - 会場：神奈川県立精神医療センター 2階講堂
 - 募集人数：各回20名
(1施設2名までとさせていただきます)
 - 対象者：県内関係機関に勤務されている医療職の方、および行政職の方。
 - 申込み方法：当センターホームページからお申し込みください。
 - 申込み締切：各回先着順。募集人員に達し次第、締切とします。
- ◎見学会に併せて、「ナチ時代の患者と障害者たち」(ドイツ精神医学精神療法神経学会：DGPPN)の移動展覧会(タペストリー展示)を開催します。



デイルーム

プログラム

平成28年1月21日(木)・2月18日(木)

- | | |
|-------------|-------------------------------------|
| 13:00~13:30 | 所長挨拶
病棟の紹介(依存症病棟・ストレスケア病棟・思春期病棟) |
| 13:30~15:00 | 各専門病棟・療法棟見学 |
| 15:00~16:00 | 情報交換会(各病棟の担当医、コメディカルも参加します) |

平成28年3月2日(水)

- | | |
|-------------|-------------------------------------|
| 9:30~10:00 | 所長挨拶
病棟の紹介(依存症病棟・ストレスケア病棟・思春期病棟) |
| 10:00~11:30 | 各専門病棟・療法棟見学 |
| 11:30~12:30 | 情報交換会(各病棟の担当医、コメディカルも参加します) |



問い合わせ先：福祉医療相談科

セカンド・オピニオン外来を新装します

Quality UP

内容は次のとおりです。

- 所長の岩井をはじめ幹事職員が担当します ●電話で申し込みができます
- 患者さんや家族だけでなく、関係医療機関におかれましても、この機会にご利用を検討ください。

- セカンド・オピニオンとは、現在受けている医療について、**主治医以外の医師に意見を求めること**です。今どこかで治療を受けている方が、主治医の紹介状をもとに、他院の医師に意見を聞く方法であり、今日、日本の医療のなかで一般的になりつつあります。
- これまでは、主治医にそうした紹介状を書いてもらうことは、なかなか申し出にくかったかもしれません。しかし、**最近ではごく普通に行われるようになり**、主治医も現在の治療の情報を快く提供してくれるようになりました。もちろん、当センターの医師も患者側からそのような求めがあれば、進んで情報提供しております。
- セカンド・オピニオンは、**医療の質を高める有効な手段**であり、患者さんにとって、今の治療が他院の医師からみても妥当であると分かれば、さらに安心して医療を継続できることとなります。また、別の提案があれば、その中から自ら方針を選択できます。
- この外来は、**転院のための外来ではありません**。従って、投薬や処置はおこないません。別の視点からの意見を聞くチャンスを提供しますが、**基本は現在の医療の理解を深め、より安心して継続するための外来**です。
- 当センターではこのたび、従来のセカンド・オピニオン外来の受診手続きなどを見直して、利用しやすいようにしました。

なお、依存症やストレスケア、思春期医療などの**専門領域の場合は、専門の医師が担当します**。

問い合わせ先：外来看護科

「ナチ時代の精神医学」について

平成27年6月初旬、大阪で第111回日本精神神経学会が開かれました。そこには、当センター所長(岩井)の推薦によって、ドイツ・アーヘン大学教授、フランク・シュナイダー氏が招かれ、「ナチ時代の精神医学」の特別講演が催されました。

シュナイダー氏は平成22年にベルリンの学会で当時の学会会長として、ナチ時代の精神医療の迫害者に対する追悼談話をおこないました。その談話は過去の事実を70年たって学会がはじめて公式に認めた記念すべき講演でした。談話のしめくりには3000人の参加者が犠牲者に黙祷をささげました。この講演はドイツ精神医学の深い反省の契機となったばかりでなく、国境をこえて医療の責任をあらためて考える機会をあたえました。同じように今回の大阪講演でも、日本の精神科医療関係者の深い感銘を呼びました。

また大阪の学会会場ではドイツ大使館と当センターの協力のもとに、このテーマを40枚の大判タペストリーで表現した移動展覧会が3日間の会期を通して開催されました。当センターでは参加者の理解を深めるために、日本版パンフレットの作成に協力しました。移動展覧会は大きな反響をひきおこしました。40枚のタペストリーは、今後も折をみて展示する予定です。なお大阪の学会のあと、シュナイダー教授は6月11日ここ横浜でも関連したテーマで講演をされ、当センターや地域の医療関係者と親しく討論しました。



シュナイダー博士と当センター医師



パンフレットとタペストリー

外来診療担当表

平成27年12月1日現在

			月	火	水	木	金
1	思 春 期	午前(初診)	初診担当医		初診担当医	初診担当医	
		午後(再診)		磯崎	金澤	横山	磯崎
2	一 般	午前(再診)	福生		川副	安田	和田
		午後(再診)					
3	一 般	午前(再診)	中田	磯崎	小澤	横山	吉田
		午後(再診)					
4	一 般	午前(再診)	北川	寺山	伊藤	井上	加藤
		午後(再診)					
5	一 般	午前(再診)	村田	茨木	森長	梁詒	吉池
		午後(再診)					
6	一 般 ストレスケア	午前(再診)			岩井	中村	
		午後(初診)	初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医
7	一 般	午前(再診)	青木	森脇	林田	金澤	
		午後(再診)					
8	一 般 初 診	午前(初診)	初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医
9	依 存 症	午前(初診)	初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医
10	依 存 症	午前(再診)	山本	黒澤	辻村	辻村	黒澤
		午後(再診)					
11	依 存 症	午前(再診)	黒澤	小林	黒澤	小林	小林
		午後(再診)					
12	依 存 症	午前(再診)	青山	山本	山本	川副	山本
		午後(再診)				山本	